

## ◆参加報告◆

## 研修会に参加して

石橋 尚子

7月17、18日に開催された第16回日赤図書協議会研修会・総会に初めて参加しました。今年の4月から図書室勤務になり、日々の業務をこなすのも精一杯。学生の時に勉強したはずの図書館の知識など、思い出す間もないような日々を過ごしていました。

そんな中、今回の研修会に参加する機会に恵まれました。初参加ということもあり、緊張していましたが、それ以上に普段文献複写のやり取りをしている担当の皆さんに会えること、また魅力的なプログラムを見て、研修会を楽しみにしていました。

1日目の講義では、日本赤十字社医学図書館や、インターネットを使った情報検索について実践的な方法を多く聞くことができ、大変参考になりました。当図書室でもぜひ職員に紹介したいと考えています。

と、ここまでずっと緊張が続いていたのですが、その夜の懇親会では他施設の皆さんとご当地のこと、そしてもちろん図書のことと、いろいろな話をするのができ、個人的にとっても有意義な時間を過ごすことができました。皆さん本当に知識が豊富で、私も来年には図書室について熱く語れるようになっていたいものです。

2日目の公開講座では、名郷直樹先生のお話が印象的でした。「(職員への) 情報提供

により、患者様の役に立つ」いう考えにはハッとさせられた思いです。正直、これまでの私は求められた情報をただただ提供するのみで、それが患者様のためになるという考えは持っていませんでした。目の前の利用者しか見えていなかったのです。今回、病院図書室としてのあり方を考えさせられ、これからの業務をしていく上での軸ができたような気がします。向こう側には常に相手がいるということをお忘れず、利用してもらえる図書室を目指して日々の業務に励みたいと思います。

また、研修を通しては電子ジャーナル—特に洋雑誌に関して、すでに移行している施設も多く、当院でもコンソーシアムへの参加など、具体的に検討していかなくてはと焦りも感じました。

自分の未熟さを痛感した2日間でもありましたが、他施設の皆さんと知り合うことができ、心強い味方ができたような気持ちです。まだまだ教えていただきたいことがたくさんありますので、今後ともよろしく願い致します。

最後になりましたが、今回の研修を企画してくださった役員の皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。

ISHIBASHI Naoko

松江赤十字病院

tosho@matsue.jrc.or.jp